



農家の人の知恵に学ぶ

校長 垣崎 晃

梅雨の晴れ間に夏の足音が間近に感じられるころとなりました。先月15日、5年生が新しい校庭にある田んぼで初めての田植えを行いました。みんな泥だらけになりましたが、とてもすてきな笑顔でした。「大変だけど、たのしい」という声が聞こえてきました。

作物を栽培する農家の方々は、昔から暦や天気の状態を観察して、田や畑の段取りをするといった知恵もっています。

初夏のころになると「夏も近づく八十八夜、野にも山にも若葉が茂り・・・」と歌われているように、春分の日から八十八日目が新茶の摘み取りに適しているとして茶摘みに精を出します。この時期は天候も安定していて、太陽の光や初夏の風が茶葉をいっそう引き立て、おいしいお茶をいただけるという知恵なのでしょう。

この季節を過ぎると半夏生（はんげしょう）という時期を迎えます。半夏生は夏至から11日目にあたる日を言い、太陽が天球上の黄経100度の点を過ぎる時でもあります。この時期は、最も田植えに適した時期だと言えます。農家にとっては大事な節目の日で、この日までに農作業を終え、この日から5日間はお休みにするという地方もあります。今年の半夏生は7月2日です。

7月に入ると長く続いた梅雨も明け、「五風十雨（ごふうじゅうう）」という時期を迎えます。「五風十雨」とは農家の人にとっては、野菜や穀物の種まきという大事な節目なのです。「五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降る」という意味です。

いずれも栽培を成功させる農家の方々の知恵です。

3年生の音楽では「茶摘み」の歌を習います。教科書には見開き一面に青々とした茶畑の写真が載っています。5年生は社会科で日本の米づくりを学習しています。農家の方々の知恵と努力について学んでいます。

食事をいただくとき、自分たちには直接会うことのできない農家の方々にも感謝の気持ちを忘れないようにしたいものです。

6月30日（水）と7月2日（金）は保護者会です。感染症対策を万全に、学級ごとで時間をずらし、密にならないよう開催いたします。開始時刻に合わせてご来校いただくこと、終了時は速やかにご帰宅いただくことをお願いいたします。

また、7月10日（土）は今年度初めての学校公開となります。こちらは、各家庭、1名で参観できる時間も決まっておりますので、お間違えのないようお願いいたします。